

2017年6月11日

福音書からのメッセージ

だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

(マタイによる福音書 28章 19～20節)

今日の箇所は、「宣教命令」と呼ばれるところです。復活したイエス様は弟子たちに対し、「行って、すべての民を弟子にきなさい」と命じられます。この言葉をわたしたちはどのように受け取ればよいのでしょうか。

宣教というと、街頭で大きな声を出したり、ビラを配ったり、家を訪問したりと、そのようなイメージがあるかもしれませんが、そして自分には関係ないことだと勝手に思ってしまう、そんなことはありませんか。

もしわたしたちが自分の力だけで、自分で考え出した言葉で神さまの愛を語らなければいけないのであれば、とても大変です。逃げ出したくなる気持ちもわかります。しかし福音を伝えるということは、そういうことではないのです。

簡単にいうと、「自分に与えられたものを伝える」ということです。たとえば近所に美味しいラーメン屋さんが出来たとします。友達に「今度出来たラーメン屋さん、美味しいから一緒に行こう」と誘うとき、実際に一度食べているかどうかで、その言葉の説得力はまるで違うと思います。

では、わたしたちに与えられているものとは何でしょうか。わたしたちにはそれぞれ、得意なことがあると思います。歌を歌うことやお菓子を作ること、人と接するときに見せる優しさや、人のために祈ることなど。それらはみな、神さまがわたしたち



に与えてくれたもの、「賜物」です。わたしたちはその賜物を生かし、隣にいる人の

ため、神さまのために用いるのです。

宣教とは、聖書がどんなことを書いているのかを正しく理解し、説明することではありません。神さまから与えられたものを生かし、人に仕える。イエス様がそうであったように、人の間で生きていく。そのことによって、神さまの愛を伝えていく。それが宣教なのです。

そして「聖霊が共に働いてくれる」ということも、忘れてはなりません。宣教は決して自分の力だけでおこなうことではないのです。イエス様は約束してくださいました。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」と。わたしたちは決して見捨てられてはいません。イエス様が与えて下さった聖霊がわたしたちを導き、助けてくれます。わたしたちがたとえ、何をすべきか迷ったとしても、身体のを抜いて、聖霊の働きに身を委ねれば、必ず良い方向へと導いてくれるのです。

「いつも共にいる」という約束を信じ、歩んでいきましょう。そして今、不安の中にいる人がいたら、「大丈夫、神さまはあなたを愛している」と伝えましょう。あなたが神さまに愛されているのと同じように。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>